

つたえる地域 つながる地域

郷土の魅力 英語で紹介

八戸、三沢の高校生と大学生 米国人に研究発表



高校生、大学生が英語で研究成果を発表した交流会

三沢

三沢市国際交流教育センターで8日、高校生、大学生が一つのテーマについて調査、研究した結果を英語で発表する「English Presentation交流会」が初めて開かれた。発表者は、米国人の聴衆に対し、郷土の文化や伝統芸能などの英語で紹介し、日本の文化への理解を深めてもらった。

(大澤諒)

南部弁や手踊り、えんぶり

英語教育を推進する同市の市民団体「Misawa English Activities」(米倉幸星代表)が、若手のグローバルな人材を育てる目的で開いた。聴衆として、米軍三沢基地や市国際交流協会、日米友好クラブ三沢の米国人約20人を招待した。今回は、八戸、三沢両市から、高校生や大学生でつくる7グループが参加。八戸学院大看護学部2年の金澤彩佳さん(26)と吉田澄玲さん(20)は、和服姿で南部町の伝統芸能を紹介。吉田さんは南部手踊りを披露し、注目を集めた。他の班は、南部弁の魅力やえんぶりなどについて伝えた。

発表後は、米国人と会話する時間が設けられ、各自が楽しくコミュニケーションを取りながら交流を深めていた。